

# 一人の中に多様な人格を持つ マルチパーソナリティの時代

本稿は、2010年5月11日に  
オンライン経営情報誌「GLOBIS. JP」に掲載された  
会場との質疑応答を再構成したものです

**会場** 私は二つの仕事を掛け持ちしております。一つはインターネットの Web マーケティングのコンサルティング。これは数字が目に見えて、結果として表れてくる世界で、一緒に働く職場の仲間も、論理的で男性が多い社会です。もう一つは、結婚・恋愛の相談を受けるカウンセリング。そちらは女性がほとんどで、結果が目には見えない。何かを感じ取って、そもそもこれで良かったのかどうなのか、その判断がなかなか難しい。ただその中で、いま言ったような数字で目に見える世界と、目に見えない感情の世界、ついついその二つを、どちらかに答えを求めてしまう。でも実際は、永遠に答えが出ない。その矛盾を感じながら、日々仕事をしています。この答えを求めているわけではないのですが、何かご経験の中から一つでもお言葉を頂戴できればと思います。

**田坂** 私が最初に申し上げたいのは、ご質問者の方は、素晴らしい立場にいらっしゃるということですね。なぜなら、これは小生の著書、『未来を予見する5つの法則』の中に書いたことですが、これからの時代は、「マルチパーソナリティの時代」になっていくからです。

これまで、我々は、一つのペルソナ（仮面）で生きてきました。例えば、ある企業に就職し、定年退職までの何十年、一つの職場、一つの職業で仕事をするという方が、数多くいました。その結果、それがメーカーのエンジニアの世界であれば、そのメーカーの文化、エンジニアの職場の雰囲気の中で、無意識に、ずっと「一つのペルソナ」で生きていくことになるわけです。もしそれが、「男性社会」的な職場なら、私も、その「男性社会的な雰囲気」に合わせ、それで

ずっと生きていくことになります。それが、これまでの社会の在り方でした。

しかし、人材流動化が進み、一人の人間が生涯を通じて、いくつもの企業、いくつもの職場で働くようになる。余暇時間も増え、仕事以外に興味を持ち、NPOなどの活動に参加する人も増える。また、インターネット革命の結果、我々は容易に、様々なコミュニティに参加し、様々な活動に取り組むことができるようになった。その結果、我々は、無意識に、いくつもの人格、パーソナリティを使い分けて生きていくようになります。言葉を換えれば、我々は「何人もの自分」を生きられる時代になったのです。

これまでの時代は、自分の中に色々な人格の自分がいながら、同じ会社、同じ職場で一つのペルソナを被り、一つの人格を演じるようになると、それ以外の人格は、その大半を抑圧していました。そのペルソナ以外の他の人格が表に出てくるのは、家に帰って子どもを抱くときに「子煩悩な父親」としての姿が出てきたり、高校の同窓会で「昔の楽しいあいつ」になるということもありますが、せいぜいそれくらいでした。

しかし、これからの時代は、かなり違ってきます。皆さんの中には「マルチハット」(Multi Hut)の方が沢山いらっしゃるのではないですか。最近では、「職業は？」と聞かれて、名刺を何枚も出す方がいらっしゃいます。「昼は、あるメーカーに勤めていますが、週末はNPOで活動しています。そして、趣味でカメラをやっていますので、夜は、自分の写真ギャラリー・サイトを創っています」などといった方が増えています。

これが「マルチハット」（いくつもの帽子を被る人）と呼ばれる人ですね。

実は、これは、弁証法の法則「螺旋的發展」が起こっているのですね。古く懐かしいものが、新たな価値を伴って復活してくる、という法則です。私はしばらく前に、『Voice』という雑誌に論文を書きました。「ダヴィンチ社会」についての論文です。かつては、レオナルド・ダヴィンチのように、いくつもの分野に才能を発揮する人は結構いたのですね。それが、分業化と専門化の時代において、消えていった。しかし、懐かしい「ダヴィンチ社会」が、もう一度戻ってきたのです。もちろん、ダヴィンチほどの天才ではないにしても、様々な分野で才能を開花させ、発揮する人が増えているのです。我々は、自分の中に眠っている様々な才能を開花させ、様々な人格を生きることのできる時代を迎えているのです。

ですから、質問者の方は、コンサルティングの世界で、一つの才能と人格が開花されていくと同時に、カウンセリングの世界でもまた、別の才能と人格が開花していくのかと思います。ですから私は、それを、「素晴らしい立場」にいらっしゃると申し上げたのです。

そして、この「自分の中のいくつもの人格」の存在を理解することができるならば、現代においてよく使われる一つの大切な言葉が、なぜ、実践できないのか、その理由も理解できるでしょう。それは、「多様な価値観の尊重」や「多元主義」という言葉です。すなわち、現代においては、国連に行っても、世界中の国際会議に行っても、どこに行っても、「これからは多様性が

大切だ」と語り、「多様な価値観の共生が大切だ」と語っています。そのことに反対する識者は、まずいません。では、現実に「多様な価値観の共生」が起こらないのは、なぜか。

それは、我々の一人ひとりの中に、「多様な価値観の共生」が起こっていないからです。

自分の心の中で、「これは本当の自分」「これは偽物の自分」というように区別を持ちこみ、好きではない人格については、それを抑圧し、受け容れなければ、個人の中において「多様な価値観の共生」は実現できません。そして、個人において実演できなければ、社会においても、それは実現できない。本当に「多様性を受け容れる社会」を実現したいのであれば、実は、我々一人ひとりの個人が、自分の中の「多様性」を受け容れていかなければならない。東洋思想は、昔から、自分の中に多様な自分がいるということを、教えています。東洋思想では、「自分の中に悪魔がいる」といった形で、単純な二分法で人間を見ないのです。

たしかに、「多様な自分」を生きるということは、ある意味で苦しいことですね。しかし、それは、とても豊かな生き方ではないでしょうか。苦しいことも含めて、それを楽しまれたらよいかと思います。